

【SDGs 特集 / SDGs Special Feature Article】

## 中国における ESG 投資： 現状、課題と最近の取り組み

### ESG Investment in China: Current Situation, Challenges and Recent Initiatives

アジア成長研究所教授 戴 二彪

Asian Growth Research Institute (AGI), Professor DAI Erbiao

#### 要旨

2006年に国連が「責任投資原則（PRI）」を提唱して以来、企業が環境（Environment）、社会（Social）、およびガバナンス（Governance）の3つの領域において実施した活動による持続可能な発展への貢献も考慮した ESG 投資が注目されつつある。特に、2015年に国連が17のSDGsを打ち出して以降、SDGs戦略の実現に効果的に促進できる ESG 投資はより多くの国で支持されるようになった。中国において、欧米や日本と比べ、ESG投資の開始が遅れたが、2021年に中国政府がカーボンピークアウト・カーボンニュートラルというダブルカーボン目標を打ち出してから、中国の金融界・産業界において、ESG投資・ESG経営への関心が高まっている。ただし、ESG関連情報の開示率と質、評価機関の信頼性、およびESG評価の国際連携と海外発信などについて、まだ多くの課題が残っている。国のSDGs戦略におけるESG投資の役割を果たすために、中国における最も重要な国際貿易・国際金融都市であり最大の経済中心都市である上海は、強い責任感を持っている。上海のESG関連施策では、その都市特性や多国籍企業・国際業務関連企業の示範的役割を活かしながら、上海および中国全国の主要企業のESG経営水準の向上に向けて、重要なリーダーシップを発揮している。

キーワード：ESG投資, 中国, 上海

#### Abstract

Since the United Nations proposed the Principles for Responsible Investment (PRI) in 2006, ESG (Environmental, Social, and Governance) investment, which considers a company's contribution to sustainable development through its activities in these three areas, has gained high attention. Especially since the United Nations introduced the 17 Sustainable Development Goals (SDGs) in 2015, ESG investment, which can effectively promote the realization of SDG

strategies, has garnered increasing support from many countries. In China, although the adoption of ESG investment was slower compared to Europe, the U.S., and Japan, interest in ESG investment and ESG management has been growing in the financial and industrial sectors since the Chinese government introduced its dual carbon goals—carbon peak and carbon neutrality—in 2021. However, challenges remain in several areas, including the rate and quality of ESG-related information disclosure, the reliability of evaluation mechanisms, and international cooperation and global dissemination of ESG evaluations. To fulfill its role in the national SDG strategy, Shanghai, the most important international trade and finance city in China and its largest economic hub, bears a strong sense of responsibility. Through ESG-related initiatives, Shanghai has demonstrated significant leadership, leveraging its city characteristics and the exemplary roles of multinational and international companies to improve the ESG management levels of major enterprises in Shanghai and China.

**Keywords** : ESG Investment, China, Shanghai

## 1. はじめに

近年、持続可能な発展と SDGs (Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標) が世界各国で重視されつつあるなか、「ESG 投資」は金融業界などで大変注目されるキーワードとなっている。ESG という略語は、それぞれ Environment (環境), Social (社会), Governance (ガバナンス) の頭文字を表しており、これらの ESG 要素に関する取り組みを重視した投資が ESG 投資である。

ESG 投資ブームに火をつけたのは、2006 年に国連が公表した PRI (Principles for Responsible Investment, 責任投資原則) である。この PRI では、投資家が責任ある投資を行うための 6 原則が提唱された。その後、地球温暖化・格差・人権問題等への関心の高まりにつれて、2015 年 9 月の国連サミットで、17 の SDGs が国際社会の共同目標として打ち出された。投資家や金融機関に対して投資・融資業務を通じて環境問題や社会問題の解決に取り組むことがますます強く求められ、PRI の署名機関数は、6 原則が公表された 2006 年から 2021 年までの 15 年間に約 60 倍も増えている。ESG 投資を行う金融機関と PRI の署名機関は、欧米諸国に集中していたが、2015 年に世界最大の投資家と言われる日本 GPIF (Government Pension Investment Fund, 年金積立金管理運用独立行政法人) が PRI に署名したことによって、日本や中国をはじめとするアジアでも ESG 投資に対する関心が急速に高まっている。

こうした ESG 重視の投資理念への転換に伴い、上場企業など大企業だけでなく、持続的な発展を目指す多くの中小企業 (特に国際貿易を行う企業) も経営戦略を再考・調整しなければならない。本稿では、世界における ESG 投資の動向を概観したうえで、世界第 2 の経済大国中国における ESG 投資の現状、課題および中国の国際貿易・国際金融の中核都市上海における最近の取り組み

を考察する。

## 2. 世界における ESG 投資の動向

### 2.1 世界で注目される「ESG 投資」の背景と動向

2006年に、「金融は世界経済の原動力となっているものの、投資判断には環境・社会・ガバナンスの視点—すなわち持続可能な発展の原則が、十分に反映されていない」という認識のもとで (UNEP Finance Initiative and UN Global Compact, 2006), 国連がニューヨーク証券取引所で責任投資原則 (PRI) を公表し、投資家が責任ある投資を行うための6原則を提唱した (表1)。

PRI が公表された2006年に、この6原則に賛同して署名した機関は63機関 (運用資産合計約6.5兆米ドル) であったが (図1), 2008年の世界金融危機への反省や気候温暖化・格差・人権など環境・社会問題への関心の増大に伴い、PRI に署名する機関が徐々に増加した。

2015年9月の国連サミットで、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、2016年から2030年までの17のSDGs (持続可能な開発目標) が国際社会の共同目標として打ち出された。このSDGsはESGの基本理念と一致し、Environment (環境), Social (社会), Governance (ガバナンス) を含むより広い領域をカバーしている。

SDGs戦略は、先進国・発展途上国を問わず、すべての国連加盟国での実施が要求されており、それを達成するためには、膨大な資金が必要であるとともに、SDGsを重視するインセンティブを強化しなければならない。資金不足の解消とインセンティブの強化を促進するためには、経済活動の中核としての金融機関の責任と役割が極めて重要となるので、金融界においてESG投資が一層重視されるようになった。2015年末 (12月28日) に、PRIに署名した機関数は、1,446機関 (運用資産合計59兆米ドル超) に拡大した。

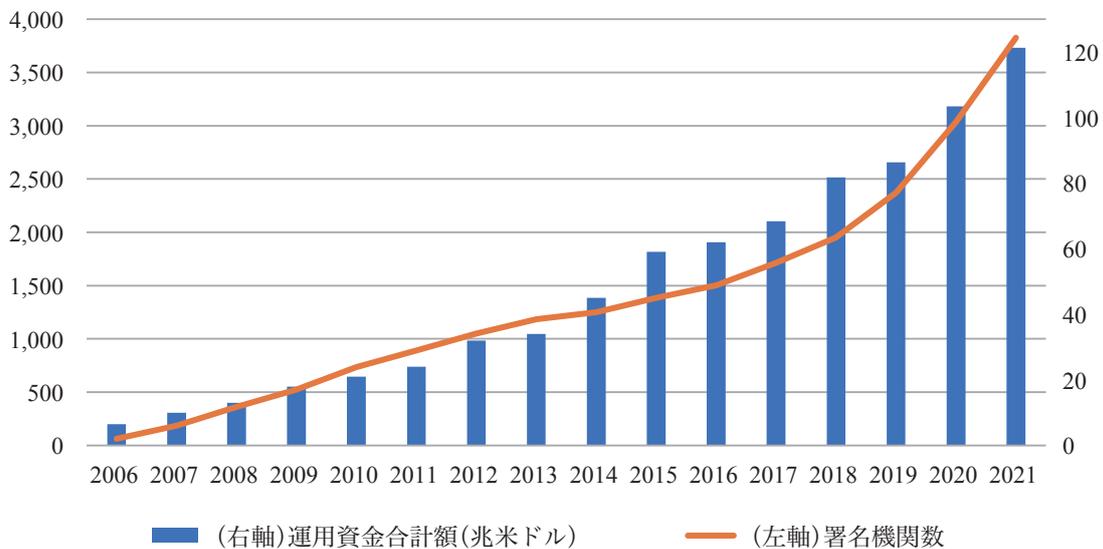
2021年に、署名機関数はさらに3,826機関 (運用資産合計121.3兆米ドル超) にまで増加し、2006年の20倍近くになっている (図1)。PRIへの署名は、これからの投資行動にESG要素を取り組んでいく意思を明確に示しているので、図1に示される署名数の急増は、ESG投資の世界レベルでの拡大トレンドをはっきり反映している。

表1 2006年に国連が公表した責任投資6原則

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投資分析と意思決定プロセスにESG問題を取り入れる。</li> <li>2. 積極的な所有者になり、ESG問題を所有方針と実践に取り入れる。</li> <li>3. 投資対象企業にESG関連問題について適切な開示を求める。</li> <li>4. 投資業界において責任投資原則が受け入れられ、実施に移されるように働きかける。</li> <li>5. 責任投資原則の実施効果を向上させるために協同する。</li> <li>6. 責任投資原則の実施状況と進捗状況を報告する。</li> </ol> |
|--|

(出所) UNPRI (2022) に基づき作成。

図1 世界における PRI 署名機関数と運用資金額の推移 (2006~21年)



(出所) GSIA (2021) と UNPRI (2022) より作成。

## 2.2 日本における ESG 投資の動向

欧米先進諸国と比べ、アジアにおける ESG 投資の開始はかなり遅れたが、日本も例外ではない。しかし、2015年9月の国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、同年9月28日に世界最大の投資家と言われる日本 GPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) が PRI に署名して以降、日本社会における SDGs や ESG 投資への関心が高まりつつある。

2017年に日本 GPIF が、約1兆円規模で ESG 投資をスタートした。この投資行動は、日本における ESG 投資が本格的に開始したことを象徴している。

表2は、世界各地域と日本の ESG 投資額の推移を示している。同表から、2020年の日本にお

表2 世界各国・地域と日本の ESG 投資額の推移 (2016~20年, 単位: 10億米ドル)

国・地域	2016	2018	2020
欧州	12,040	14,075	12,017
米国	8,723	11,995	17,081
カナダ	1,086	1,699	2,423
オーストラリア・ニュージーランド	516	734	906
日本	474	2,180	2,874
合計	22,839	30,683	35,301

(注) 世界の ESG 投資額の統計を集計している国際団体の GSIA (Global Sustainable Investment Alliance) には、世界各地域の ESG 投資協会7団体が加盟している (2021年時点)。加盟団体は、米国の USSIF、欧州の Eurosif、英国の UKSIF、オランダの VBDO、カナダの RIA Canada、オーストラリアの RIAA、日本の JSIF (日本サステナブル投資フォーラム) となっている。

(出所) GSIA (2021) p.9 により作成。

ける ESG 投資額は 2.874 兆米ドルになっており、欧米と比べて規模はまだ大きくないものの、世界全体に占める割合は 2016 年の 2.1% から 2020 年の 8.1% へと急速に拡大していることが分かる。

### 3. 中国における ESG 投資の現状

#### 3.1 中国における ESG 事業の発展過程

中国の ESG 事業（ESG 投資とその関連政策）は、欧米や日本より出発が遅れたものの、近年では政府、社会、金融機関、企業からますます重視されるようになってきている。中国の ESG 事業の発展過程は、以下の 4 つの段階に分けることができる（上海交通大学高級金融学院、2024）。

- **初期段階（2006～08年）**：この期間に、中国政府は ESG 経営・ESG 投資に関する政策や規則を制定し始めたが、企業に対して環境・社会・企業ガバナンスについての取り組みに関する情報（ESG 情報）の開示を義務付けることはなかった（一部の企業が自発的に情報開示を行うにとどまった）。
- **探索段階（2008～15年）**：この期間に、中国の ESG 関連政策と規則が徐々に整備された。ESG 情報の開示においては、強制的な要求と自発的な取り組みが並行して行われ、企業の ESG に対する意識が高まった。
- **発展段階（2016～20年）**：この期間に、ESG 関連政策は国家発展戦略の一部としてさらに重視されるようになった。情報開示と評価の仕組みが徐々に改善され、ESG 分野の取り組みと効果・貢献に関する評価（ESG 評価）の標準化と国際的な整合性の推進も進展した。
- **深化段階（2021年～現在）**：この期間に、カーボンピークアウト（中国語：碳达峰）・カーボンニュートラル（中国語：碳中和）というダブルカーボン目標（中国語：「双碳」目標）が徐々に具体化され、企業の社会的責任への要求が高まった。ESG 関連政策と規則がさらに整備され、グリーンファイナンスと ESG 投資が連携して発展した。情報開示と評価の仕組みも一層重視され、ESG 評価における国際協力と国際化がさらに推進された。これにより、中国の ESG 投資は新たな発展段階に入った。

2021～22 年には、次の重要な出来事があった。

- 2021 年 9 月、中国共産党中央委員会と国務院が「新しい発展理念を完全かつ正確に貫徹し、ダブルカーボン目標事業を推進するための意見について」を発表した。
- 2021 年 10 月、国務院は「2030 年までのカーボンピークアウト行動計画」を公布し、グリーン株式、グリーン融資、グリーン債券、グリーン保険、グリーンファンド、などグリーンファイナンスの推進を明確に要求した。
- 2022 年 3 月、「ダブルカーボン目標」が国務院の「政府工作報告」に明記され、カーボンニュートラルの事業を段階的に推進し、カーボンピークアウト行動計画を速やかに実施するよう要求された。こうした「ダブルカーボン目標」の推進指針とグリーンファイナンス理念の普及は、中国の ESG 事業の発展を強力に推進している。

- 2022年、中国証券監督管理委員会は、「公募基金業界の高品質な発展を加速するための意見書」を発表し、業界に対して環境、社会、およびガバナンス（ESG）の責任を果たし、経済的利益と社会的利益を一致させるよう督促した。また、「上場企業の投資家関係管理ガイドライン（2022年版）」も発表し、初めてESG情報の開示についての要求を取り入れた。このような監督・管理政策の変化は、投資機関や上場企業などによるESG投資の実行を直接的に推進した。
- 2022年7月、中国本土と香港の株式市場でETF（Exchange Traded Funds）の相互接続取引システムが正式に組み込まれた。同年8月、中国証券監督管理委員会と香港証券監督管理委員会は、資本市場の高水準の双方向開放をさらに拡大することを提案し合意した。こうした資本市場の対外開放の拡大によって、外国資本が、香港の株式市場を経由し中国における上場企業のESGパフォーマンスに対して圧力をかけやすくなっている。

### 3.2 中国におけるESG投資の現状

#### (1) PRI署名機関数の推移

中国のPRI署名は、欧米先進国や日本と比べ遅れて始まったが、近年の署名機関の数は増加しつつある。2024年3月末に、中国の署名機関数は140に達し、日本の署名機関数（130）を上回っている（UNPRI, 2024）。なお、表3に示されるように、中国の署名機関は、資産管理機構（機関）、第三方（第三者）サービス機構（機関）、資産所有者の3タイプから構成されるが、資産管理機構（機関）が全体の6割以上を占めており、他方で、資産所有者の割合は最も低い。

#### (2) ESG公募ファンドの数・資金規模の推移

図2と図3は、それぞれ中国市場で運用されているESG公募ファンドの数とESG公募ファンドの資産規模の推移を示している。両図からは、次の動向が確認できる。

第1に、ESG公募ファンドの数は増加しつつある。そのうち、上海の金融機構が運営しているファンドの数（2024年、224本）は、常に全国（2024年、484本）の半数前後を占めている。

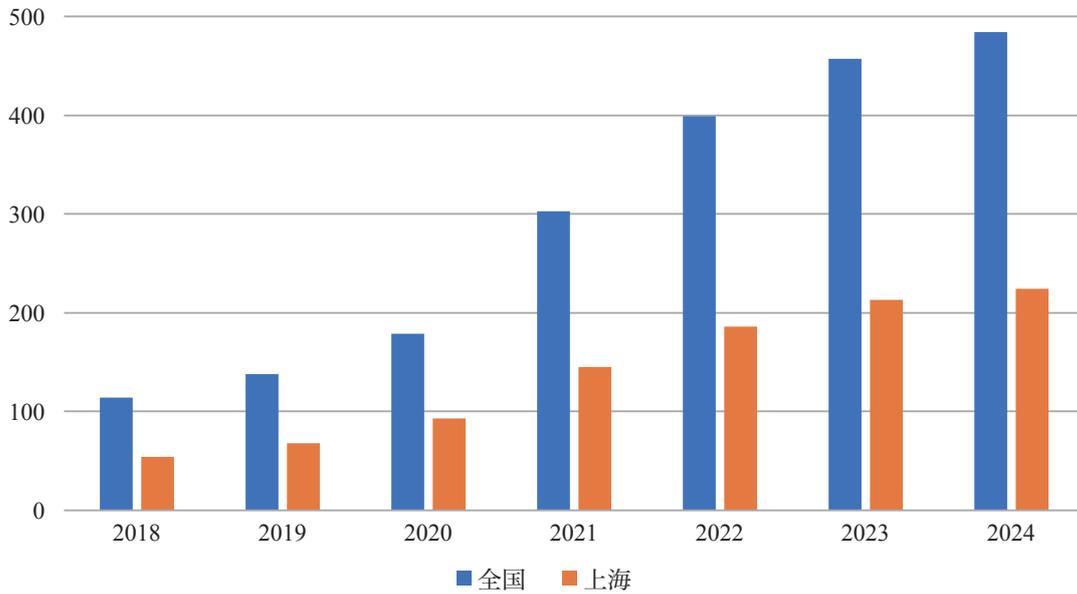
第2に、ESG公募ファンドの資産規模は、2021年までに急速に拡大したが、その後、COVID-19や経済減速の影響で、減少に転じた。2022年の中国における各種公募ファンドの総資産は26兆元（1元=約20円）に達したが、同年のESG公募ファンドの資産規模（約0.6兆億元）は、まだ各種公募ファンド総資産の2.3%に過ぎなかった。ただし、2024年のESG公募ファンドの資産規模はピーク年（2021年）前の2020年の資産規模を上回っており、経済成長が安定的に

表3 中国の各種機関のPRI署名数の推移（2018～22年）

機構タイプ	2018	2019	2020	2021	2022
資産所有者	0	1	1	2	0
資産管理機構	9	10	12	24	21
第三方サービス機構	3	4	3	6	10
合計	12	15	16	32	31

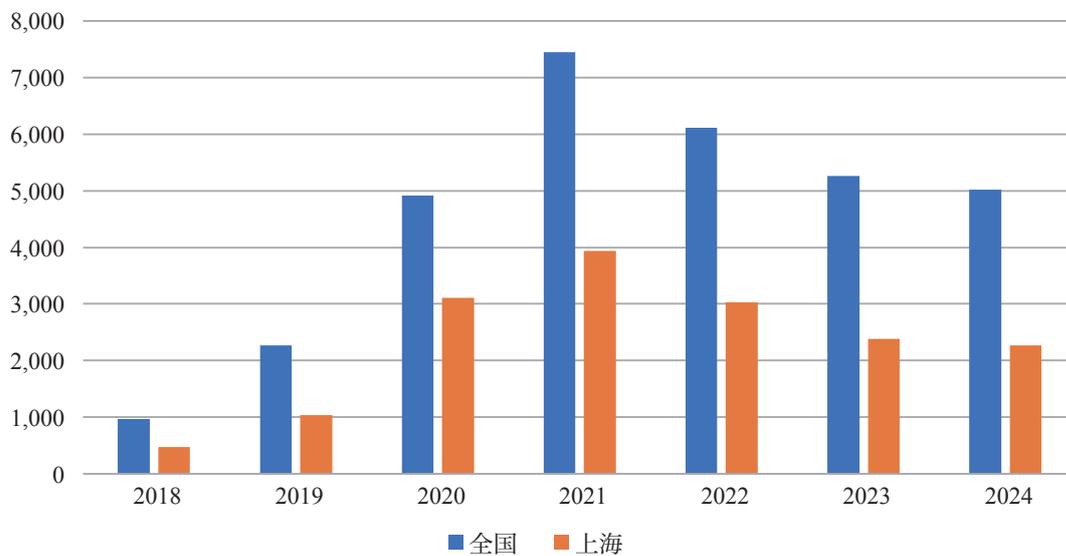
（出所）UNPRIのウェブサイト（<https://www.unpri.org/download?ac=10968> 2023年3月1日閲覧）に基づき作成。

図2 中国市場で運用されている ESG 公募ファンドの数の



(出所) 上海交通大学高級金融学院 (2024) p. 42 のデータより作成。

図3 中国市場で運用されている ESG 公募ファンドの資産規模 (単位：億元)



(出所) 上海交通大学高級金融学院 (2024) p. 42 のデータより作成。

なれば再び上昇していくと予想される。

### (3) 企業の ESG 情報の開示状況

2009年に、中国のA株市場に上場している企業のうち、CSR（企業の社会的責任）またはESGレポートを公表している企業は約400社で、全体の1割に過ぎなかったが、2021年に4,682

社のA株市場上場企業のうち、CSRまたはESGレポートを公表している企業は1,400社を超え、全体の約3割へ上昇した（中国ESG30人论坛，2022）。ただし、非上場企業と同割合はまだかなり低いとみられている。

### 3.3 中国におけるESG投資の課題

中国におけるESG投資の課題をあげるなら、第1に、ESG関連情報の開示がまだ足りない。二酸化炭素排出量で世界最大の中国では、多くの企業や地方政府がESG経営・ESG投資に対して慎重な姿勢をとっている。中央政府の方針公表から地方政府・企業の実行までに時間差があるので、2021年末の時点で、A株上場企業のCSRレポート/ESGレポートの開示率は約30%にとどまった。関連データがないと、適切なESG投資が実施できないと指摘されている。

第2に、上場企業を含む企業のESG情報の質が高くない。上場企業をはじめ、企業の情報開示が増加しているが、(a)情報の範囲が限られ、データの標準化も遅れているため、企業間の比較が難しいこと、(b)データの期間設定がバラバラで、ESG指標がポートフォリオや投資収益に与える影響を定量的に検証できないこと、(c)ほとんどの上場企業はESGに関連する経営政策を開示することに重点を置いており、具体的な取り組みや実施効果に関するデータは少ないこと、などの問題点が挙げられている。

第3に、信頼性の高いESG評価機関が少ない。国内のESG評価機関が増えているが、評価指標、評価方法、評価基準についての研究・整備は不十分で、その信頼性について国際評価機関との差がまだ大きい。

第4に、国際連携と海外への情報開示が足りない。ESG評価において、特に社会的責任と企業統治に関して、価値観の違いによって国内外評価機関によるESG評価結果には大きな違いが生じる。このため、国際的なESG評価機関による中国企業への評価にも偏りが存在している。海外投資家は主に国際機関の評価結果を参考にしており、世界市場での事業継続・拡大を目指す中国企業の多くは海外への情報開示（グローバルサプライチェーンのパートナーに対する説明を含む）がまだ不十分だとみられている。

第5に、虚偽のESG行動も増加している。投資・融資を引き寄せるために、一部の企業や機関は、投資戦略でESGに重点を置いているように見せかけるが、実際の行動に具体的で効果的なESG対策がない。こうした行動は、欧米諸国にも存在しているが、ESG投資家の正しい投資先選択に障害をもたらすと憂慮されている。

上述した問題点を改善するために、次の対策を講じる必要があると認識されている（中国ESG30人论坛，2022）。まず、政府の行政（監督）機関は、企業、資産運営機関、投資家など市場参加者に対してESG理念の認識をさらに高めさせるとともに、ESG情報開示に関する不誠実な行動への監督・罰則を強化するべきである。また、上場企業をはじめ、各種企業は、大学や金融機関と連携しESG関連人材の育成を加速すべきである。さらに、世界第2の経済大国、そして最大の輸出国として、中国の国内ESG評価機関は海外の評価機関と積極的に連携し、早急に世界に通用するESG評価システムを確立すべきである。

## 4. 中国の ESG リーダー都市上海の最近の取り組み

中国の ESG 事業におけるさまざまな問題が指摘されているなか、最大の経済都市である上海の動向が非常に注目されている。上海は、中国の経済中心都市、そして世界有数な国際貿易・国際金融ハブとしての責任を自覚して、一連の革新的な ESG 関連取り組みを実施している。

### 4.1 金融セクターのリーダーシップの促進

国際金融都市として、上海の金融機関は ESG 投資分野で重要な役割を果たしている。多くの金融機関は、ESG 指標を投資決定の考慮範囲に組み込み、持続可能な発展理念を金融業務に融合して実践することを積極的に推進している（上海交通大学高級金融学院、2024）。

そのうち、**グリーン融資**において、上海の銀行業界は国家政策の方針に積極的に応え、多様なグリーン融資商品を提供し、環境保護、低炭素、省エネルギーの基準を満たす企業やプロジェクトを優先的に支援している。**グリーン債券**の分野では、上海の金融機関がグリーン債券を発行し、多くのグリーンプロジェクトに貴重な資金を調達しており、クリーンエネルギー、省エネ・環境保護、グリーン交通などの複数の分野に投資している。

また、上海の証券業界は積極的にカーボンファイナンス業務を展開し、炭素資産に市場流動性を提供するとともに、企業が炭素市場に参加するための専門的な仲介サービスを提供している。**ESG ファンド**分野では、上海は比較的完備された ESG ファンド体系を構築しており、ESG ファンドの数と資産規模は国内でトップクラスに位置している（前出の図 2、図 3 を参照）。

さらに、**ESG 投資**では、一連の ESG 指数およびグリーン ETF 商品を開発し、投資家に対して多様な投資選択肢を提供している。上海の保険業界もクリーンエネルギー、エネルギー貯蔵、生態系保護、炭素市場の育成、グリーン交通などの分野で企業の発展を支援する革新的な保険商品とサービスを提供している。

### 4.2 国際業務関連企業の ESG 行動計画の策定

上海市政府は、ESG 評価が、企業の非財務的パフォーマンスと長期的な発展を評価する最新の国際的な基準として、中国の「イノベーション、調和、グリーン、開放、共有」という新たな発展理念に一致すると認識している。中国国内と海外の ESG 評価基準のギャップを埋めるために、2024年3月、上海市商務委員会は、上海市政府常務会議の承認を受けて、「本市における国際業務関連企業の環境、社会、ガバナンス（ESG）能力向上のための三ヵ年行動計画（2024～26年）」を策定・公表した（Shanghai Municipal People's Government, 2024）。

この『行動計画』は全国初の ESG 地域行動計画であり、あらゆる種類の企業の ESG 能力構築をカバーしている。同『行動計画』では、2026年までに、上海市の政府機関、業界組織、国際業務関連企業、（ESG 評価に関する）専門サービス機関が共同で参加・協力して国際業務関連企業の ESG エコシステムを構築し、さらに国際業務関連企業の ESG 理念を上海全企業に定着させ、企

業の ESG 関連能力と経営水準を顕著に向上させることを目指している。

この『行動計画』には、下記のように、3つの主要な行動が打ち出され、それぞれ4つの重点措置（合計12個）が含まれている。

- 企業の ESG 能力向上行動：国有企業に ESG に関する先行的な役割を果たさせること、民間企業が積極的に ESG 理念を実践することを支援すること、国際業務における ESG 基準の適用を強化すること、外国企業との ESG 実践の協同効果を引き出すこと、などが含まれる。
- ESG 市場の効率向上とエンパワーメント行動：ESG 分野での国際交流と協力を強化すること、ESG 金融サービスや金融商品のイノベーションを推進すること、ESG 専門サービス機関（評価機関など）を育成・拡大すること、ESG 理念の普及を強化すること、などが含まれる。
- ESG サービス体系の最適化行動：国際業務関連企業の ESG 推進メカニズムを構築すること、ESG に関連する支援政策を策定すること、ESG 専門人材の育成を推進すること、ESG イノベーションエコシステムの構築における模範的な役割を発揮すること、などが含まれる。

#### 4.3 多国籍企業地域本部 ESG 分会の設立

上海市は、中国における多国籍企業の本部（中国本社）が最も集中している都市であり、市内にはそれぞれ特色のある多国籍企業本部集積地がいくつか存在している。前述の行動計画に基づき、2024年に、上海市政府は「虹橋 CBD が国際貿易センターの新たなプラットフォームを構築することを支援するためのいくつかの措置」を発表し、「国内外の著名な ESG 関連専門サービス機関を積極的に誘致し、CBD 内の業界団体や社会組織が ESG 基準および規則ガイドラインを策定することを奨励し、各種 ESG 活動を開催して、CBD における ESG サービスブランドを構築する。」と明確な要求を示した。

2024年12月5日、「2024年上海外商投資企業 ESG フォーラムおよび多国籍企業地域本部 ESG 分会設立式典」が長寧区の東虹橋で開催された（上海市商務委員会、2024）。上海の多くの外資系企業（いくつかの ESG 評価機関を含む）が参加し、多国籍企業地域本部 ESG 分会のメンバー企業となっている。多国籍企業地域本部 ESG 分会の設立の狙いは、外資系企業の示範効果によって上海での ESG 実践を促進することである。同時に、重要な交流プラットフォームとして、専門的なサポートを提供し、関連政策の実施を推進することで、中国および世界における ESG 分野の先進都市としての上海のイメージがさらに向上することも期待されている。

#### 4.4 上海「ESG 発展レポート」の公表

2024年10月16～18日に、上海の黄浦区において、「グローバル ESG 協力・発展・ウィンウィンの推進」をテーマに、2024年第4回 ESG グローバルリーダーズ会議が開催され、「持続可能な発展の実践—2024 上海 ESG 発展レポート」が公表された。これは、中国初の地方での ESG 推進に関する体系的なレポートである。

このレポートは、上海の ESG 推進の現状や ESG 分野における革新的な実践と直面する課題を

まとめ、上海のESGエコシステムにおける各参加者の役割を詳細に分析したうえで、上海は、ESG経営活動の内部化、ESG情報開示の標準化、ESG評価体系のシステム化、ESG価値実現の具体化、という「4つの～化」を引き続き推進すべきであると指摘している。同レポートは、今後のESGの方向性と戦略を論じ、中国と世界の持続可能な発展のために「上海のノウハウ」と「上海のソリューション」を提供しようとしている。

以上からみられるように、中国における最も重要な国際貿易・国際金融都市と経済中心都市である上海は、中国のSDGs戦略におけるESGの役割を果たすために、強い責任感を持っている。上海のESG関連施策は、その都市特性と優位性を最大限に活用し、外国業務関連企業や多国籍企業の示範的役割を活かしながら、上場企業をはじめとする中国国内企業のESG関連能力の向上に向けて、重要なリーダーシップを発揮している。

## 5. 結び：今後の展望

本稿では、SDGs戦略の実現に重要な役割を果たしているESG投資の世界的動向を概観したうえで、中国のESG投資の現状・課題及び同分野のリーダー都市上海の最近の取り組みを考察した。主なポイントは次のように要約できる。

第1に、2006年に国連が「責任投資原則（PRI）」を提唱して以来、責任投資原則に基づいて財務情報だけでなく企業の環境問題や社会問題などへの貢献度も考慮したESG投資が、欧米先進諸国から徐々に東アジアなど他の地域へ広がっている。

第2に、2015年に国連が17のSDGsを打ち出して以降、各国のSDGs戦略の実現を強く促進できるESG投資は、さらに多くの国で支持されるようになった。

第3に、中国においても、SDGs戦略とESG投資が重視されつつある。特に2021年に中国政府がカーボンピークアウト・カーボンニュートラルというダブルカーボン目標（「双炭目標」）を打ち出して以降、中国の金融界・産業界においてESG投資・ESG経営への関心が高まっている。ただし、ESG関連情報の開示率と質、評価機関の数と信頼性、およびESG評価の国際連携と海外発信などについて、まだ多くの課題が残っている。

第4に、中国のSDGs戦略におけるESG投資の役割を果たすために、中国における最も重要な国際貿易・国際金融都市と最大の経済中心都市である上海は、強い責任感を持っている。上海のESG関連施策では、その都市特性と優位性を最大限に活用し、多国籍企業・国際業務関連企業や国際評価機関の示範的役割を活かしながら、上海および中国全国の主要企業のESG経営水準の向上に向けて、重要なリーダーシップを発揮している。

今後を展望すると、中国の中央政府と地方政府にとって、ESG投資の促進は、SDGs戦略を推進し、経済発展の「質」の向上を図る重要な政策手段になると考えられる。上場企業であろうと非上場企業であろうと、拡大し続けるESG投資は、社会的責任を重視する企業にとって、差別化や更なる成長の機会になる。また、投資家にとって、成長の余地が大きい中国のESG市場からは、平均以上の長期投資リターンをもらえると期待できる。中国のESG投資の出発は若干遅れたが、

政府監督機関、金融機関、企業、投資家、と世論が相互に促進し合う良性循環が形成されれば、世界 1、2 位を争う ESG 市場が徐々に形成されると予想できる。

## 参考文献

### 〈英語〉

GSIA (Global Sustainable Investment Alliance) (2021) *Global Sustainable Investment Review (GSIR)*.

Shanghai Municipal People's Government (2024) "Action Plan for Accelerating the Improvement of Environmental, Social and Governance (ESG) Capabilities of Foreign-related Enterprises in Shanghai (2024-2026)".

(<https://english.shanghai.gov.cn/en-Policies/20240305/655f045c89e44070a64ca2c9cf9119f2.html>, downloaded on Dec.1, 2024).

UNEP Finance Initiative and UN Global Compact (2006) "United Nations Secretary-General Launches 'Principles for Responsible Investment' Backed by World's Largest Investor".

UNPRI (2022) "About the PRI". (<https://www.unpri.org/about-us/about-the-pri>, downloaded on Feb.1, 2023).

UNPRI (2024) *Annual Report 2024*. (<https://www.unpri.org/download?ac=21536>, downloaded on Dec.1, 2024).

### 〈中国語〉

上海交通大学高級金融学院 (2024) 「践行可持续发展之路：2024 上海 ESG 发展报告」

(<https://n2.sinaimg.cn/finance/801e2f9c/20241016/ShangHaiESGFaZhanBaoGao.pdf>, downloaded on Nov.1, 2024)

上海市商務委員会 (2024) 「2024 年上海外商投资企业 ESG 论坛召开，跨国公司地区总部优秀 ESG 报告发布」

(<https://sww.sh.gov.cn/swdt/20241209/3569380070f94872b1f47573bf58f853.html>, downloaded on Dec.12, 2024)

中国 ESG30 人论坛 (2022) 『中国 ESG 发展白皮书』北京：财新智库

### 〈ウェブサイト URL〉

上海市人民政府 <https://www.shanghai.gov.cn/>

上海市商務委員会 <https://sww.sh.gov.cn/index.html>

UNPRI <https://www.unpri.org/>